

## what's immersive? 感激★イマーシブ体験

中国で大ブーム中の沈浸式(イマーシブ)型イベント。没入感たっぷりの劇やグルメ体験を楽しもう!

そもそもイマーシブって?

没入感のあるさまや、その状態に浸れることを意味する言葉である「イマーシブ(immersive)」。観客や顧客がその場の物語に深く入り込み、体験できることを重視した演出を指す。中国語では「沈浸式」。イベントサイト「大麦」や口コミサイト「大衆点评」で「沈浸式」と検索してみると、様々なジャンルのイマーシブイベントが見付かるぞ!



### 不眠之夜 (Sleep no more)

イマーシブ×ステージ(席なし)



距離感ゼロのショー  
自由に歩いて観劇を

ステージ(席なし)

### 月亮与六便士 (月と六ペンス)

イマーシブ×ステージ(席あり)



ステージ近く一体感  
運がよければ  
ステージへ

ステージ(席あり)

その他

同じジャンルのステージ

- ・「三体・引力之外」沈浸式科幻体験(～5/31)
- ・沈浸式互動劇「玩味制片厂」(～5/28)

難易度

このジャンルの	
没入感	★★★★
難易度	★★★★
チケット料	★★★★

その他

同じジャンルのステージ

- ・開心麻花沈浸式遊戯劇場「廣品拍賣師」(～5/14)
- ・沈浸式推理音樂劇「小説」(～5/28)
- ・沈浸式推理音樂劇「FLAMES火焰」(～5/28)

難易度

このジャンルの	
没入感	★★★★
難易度	★★★★
チケット料	★★★★

**自分の足で物語が進む**  
イマーシブ型イベントの楽しさを最大限味わえるのが、ゲストが自由に動きながら観劇するタイプのステージショーだ。  
7年前に開演して以来、変わらぬ人気の「不眠之夜(スリープ・ノー・モア)」はその代表作。観客は仮面を被って姿を消し、5階建てホテルを回りながら物語を追っていく。いくつものストーリーが絡まるが、どの路線を追うかはゲスト次第。行く度に新鮮な体験ができる仕組みだ。  
現在開催中の「三体・引力之外」はゲストが数グループに分かれ、演者ととも物語を進める。「玩味制片厂」はゲストと演者が一緒に映画製作に取り組みというユニークな構成だ。  
どのステージも没入感たっぷりの分、自ら考えて動かないといけないため、参加難易度は高め。事前にストーリー紹介やルールを確認して出かけよう。

**息遣いまで聞こえてきそう**  
イマーシブ型イベントとして最も多いのがこのタイプ。小さな劇場でステージと観客席の距離が近く、常設で年中上演されているステージも多いため、チケット料金がリーズナブルなのも魅力的だ。  
演者の表情がよく見えるよう設計されたステージは、客席までも物語に併せてイスや小道具などがアレンジされ、ムード満点。途中ゲストが数名ステージに招待され、演者と一緒に物語に参加する。  
サマセット・モームの小説が原作の「月亮与六便士(月と六ペンス)」では、ゲストが舞台に上がり演者とダンスを楽しむ。また推理ミュージカル「小説」のようなミステリーではゲストが謎解きに挑むことも。舞台上に上りたい人はぜひ前や通路側の席をゲットしよう。

### 幸会莫奈 (Bon voyage Claude Monet)

イマーシブ×アート



キャンバスを飛び越えて  
絵の世界に降り立つ!!



アート

### ANTHOLOGIA 地球美食劇場

イマーシブ×グルメ



料理に流れる  
ストーリー  
五感で味わう美しさ

グルメ

その他

同じジャンルの展示会

- ・「遇見梵高」全球巡回沈浸式光影展(～7/19)
- ・「梵高再現」沈浸式光影大展(～9/10)
- ・teamLab無界美術館

難易度

このジャンルの	
没入感	★★★★
難易度	★★
チケット料	★

その他

同じジャンルのレストラン

- ・Ultraviolet by Paul Pairet
- ・潤苑・影Vision
- ・良設夜宴LIANGSHE
- ・蝶園・宴会厅

難易度

このジャンルの	
没入感	★★★★
難易度	★★
チケット料	★★★★

**全身で飛び込むアート**  
イマーシブ型アート展示会は行ったことがない人でも比較的イメージしやすいのではないだろうか?  
従来の、額縁に入った絵や彫刻を展示するだけではなく、デジタル技術を用いて絵の世界を広げ、まるで来園者が絵の世界に入り込んだような感覚になる空間を創出。「ボンボヤージュ・ロード・モネ」のように、ARを用いて絵画を鑑賞できるなど、多彩な表現方法で名画に新しい視点を吹き込む。  
鮮やかなヒマワリが咲き誇る「遇見梵高」の展示会など、写真映えするアートの展示が多いのも特長。また名画の再現だけでなく、「チームラボ無界美術館」のように現代デジタルアートの展示も多い。カメラ片手に、家族や友だちと最新技術を堪能しに行ってみては?

**料理から広がる世界観**  
最後はイマーシブ型レストランを紹介しよう。毎日数人限定でコース料理を楽しむスタイルが多い同レストランは、人気のためどこも予約困難という。  
イマーシブ型レストランは、料理とアートが一体となったエンターテインメントを提供。それぞれの料理をイメージしたアートや風景が大型スクリーンに映し出され、時にはナレーションや歌を聴きながら、時にはダンスを鑑賞しながら料理を味わう。  
ショーを観ながら食べるテーマレストランもあるが、こちらはあくまで料理が出发点。料理に込められたテーマや想いをアートによって再現している。  
「地球美食劇場」は料理人がナレーターとなり、演劇のようにコース料理を操る。「良設夜宴」は顧客も漢服に着替え、古代中国を感じながら中華料理を味わえるレストランだ。